



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 118

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 118. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1962, 118: 31-40

ISSUE DATE:

1962-07-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186922>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会

水族館月報

NO. 118

1962. 6月 (7月5日)

録 事

6月3日南及び中水槽室への新給水配管工事終了。

7日新旧館の間にある休憩室の屋根裏に陽よけのステレをつけた。

10日午後会計監査院の検査が行なわれた。振興会に関しては、21日とくに人員及びその配置と、入場料に関する詳細な資料提出が要求された。

14, 15日 冷凍機コンデンサーの鉄の腐蝕防止用亜鉛の一部が、すでに腐蝕していることがわかった。

18日明光バスKK藤井庶務課長来館、当水族館入場券の明光バス観光乗車券と連帯する手数料を10%に引き上げるよう強硬な申入れがあった。同日香所山植物園に対しても、同じ趣旨の申入れがあり、30日明光が7月1日から発売という新観光券見本では、動物園の代りに観葉植物園が入っている。このことは振興会としても極めて重要な問題を含んでいるから、来月の委員会で十分に討議が行なわれた上、最終的態度が決定されることを期待している。

21日新館地下室倉庫は、地下温水貯水槽に接するため、天井及び壁の結露がはなはだしい。それで貯水槽との境にある換気孔にガラスをはめ、地下^{倉庫}の出入口扉の中央部に換気孔を施した。かなりの効果が認められる。

23日越前松島水族館で行なわれた第6回近畿地区水族館飼育研究会に、荒筈研究員と猪垣飼育係の両名が参加した。

26日残っていた新館E-F2水槽の漏水^止工事をはじめた。

30日小芝事務員は6月末で水族館を退職、大阪の新しい職場に移ることになった。明朗な同僚が去るのを惜しむささやかな会を27日夕湯崎松島荘で催した。同僚は30日定刻まで勤務、7月2日朝出発大阪に向かう。

業 務 概 況

◎ 6月の入場者数

区 分	大 人	中 人	小 人	合 計
水族館発売	8657	24	228	8909
団体	16826	—	—	16826
交通公社発売	5076	—	—	5076
近畿ツリスト発売	624	—	—	624
日本旅行会発売	263	—	—	263
明光バス発売	15330	—	179	15509
合 計	46776	24	407	47207
累 計	216621	588	4221	221430
無 料	日本交通公社其他			60
				348

団 体：一般 302組, 学生 7組, 合計 309組

◎ 6月の事業収入

今年度累計

観光券売上金	1,809,952	6,580,433
窓 口 売 上	712,115	2,962,618
交通公社クーポン	135,661	719,135
近畿日本ツリストクーポン	16,762	34,294
日本旅行会クーポン	7,104	15,956
明光バス観光券	938,310	2,848,430※
予金・積立金利息	—	—
手 数 料	102,870	206,728
絵 は が き 拂 下	72,790	251,550
パンフレット拂 下	8,040	34,440
南極生物報告券 下	1,830	1,830
魚 類 拂 下	6,400	6,400
雑 収 入	550	1,510
合 計	2,002,432	7,096,891

※ 明光バス観光券未収分

大人券 1224枚

小人券 11枚

水族館經費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	460,475	971,261	期末手当他
會 議 費	4,000	18,360	
備 品 費	—	141,145	
消 耗 費	46,185	249,822	
事 業 費	50,400	247,879	
維 持 費	128,946	145,401	南水槽室給水管取替工事他
其 他 諸 費	96,653	396,853	
積 立 金	276,783	1,267,179	
予 備 費	—	—	
合 計	1,063,442	3,437,900	

実験所經費

費 目	金 額	累 計	備 考
研 究 費	—	48,350	
獎 學 金	10,000	300,000	
備 品 費	—	—	
消 耗 費	—	—	
刊 行 費	—	—	
役 務 費	57,500	57,500	実験所東側囲障整備工事
合 計	67,500	135,850	

博物館經費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	32,088	78,864	
備 品 費	—	—	
消 耗 費	—	—	
役 務 費	—	—	
合 計	32,088	78,864	

臨時費

摘 要	金 額	累 計	備 考
合 計	—	5,660	

支出合計

(今年度累計)

水族館經費	1,063,442	3,437,900
実験所經費	67,500	135,850
博物館經費	32,088	78,864
臨時費	—	5,660
合 計	1,163,030	3,658,274

◎ 6月末現在高

前月よりの繰越	2,599,215
今月の収入合計	2,002,432
今月の支出合計	1,163,030
<hr/>	
現 在 高	3,438,617

◎ 前年度との比較

	1961	1962	増 減
入 場 者 数	47842	47207	- 635

水族館記事

- ◎ 2日 山本虎夫氏より、江川港エビ曳網で採集したフジナマコとカクレウオが入槽。
カクレウオの潜入行動を観察することができたが、その後フジナマコの体内に入
 つたまま出て来ないので、生死は不明である。
- ◎ 3日 R1の水面に無数のフィロゾーマを見つけ、焼物館の標本に加えた。
 No.9水槽のヒロバウケウエビが産出したもので、オーバーフロー海水と共にR1
 に集つたものらしい。
- ◎ 11日 No.9水槽底の濾砂の通水を良くするため、落水して撈拌した。
- ◎ 13日 無脊椎動物の採集に来た須磨水族館採集班と共同採集を行った。
- ◎ 21日 福井県東尋坊の近くにある越前松島水族館との間に、水族交換（こちらから
 は、南方系の魚類を提供し、かわりに、日本海産のミスダコ、ズワイガニ等を送
 ってもらふ）の約束ができ、第1回陸上輸送の試みとして、同館のトラックが来
 館。マツカサウオ、キョウキョウウオ等20種150個体を分譲した。
 なお、この輸送は途中で車の故障があつて、22時間を要したが、成功したとの
 ことである。
- ◎ 27.28日 ~~録事に記載の~~ようだ、沖縄、フィリピン 産の熱帯性海水魚が入槽、人気
 を集めている。その内容を次に表示しておく。

水槽名	種名と個体数	給水方式	餌料
T1	カクレマノミ 14	開放式	魚肉貝肉の細切
T2	クダツツ 3	〃	生きたアミ、小エビ
T3	テッポウウオ 4 クロホシマンショウダイ 5	汽水単独循環	イトメ、ボウフラ
T4	ミスジリュウキョウスズメ 6 コバルトソラスズメ 11 <i>Tetradrachum melanurus</i> 4	開放式	魚肉貝肉細切

- テッポウウオはまだ3～4cmの稚魚であるが、うまく成魚にまで育てて、こ
 の魚の特性である射水の様子を観察できるようにしたい。
 - 熱帯魚商が、Brack and white damsel fishと称する魚には、ミスジリュウ
 キョウスズメ *Tetradrachum aruanus* のほかに *T. melanurus* (和名なし)
 が含まれていることが判つた。
- ◎ 6月に入つて、白点病の被害は更に増加し、換水等の悪い水槽では、全滅するものも
 あつた。対策として

(1) 塩酸キネネ浴の回復

(2) 熱湯と中性洗剤(病原虫の胞子の外皮が、類脂質なので、これを破壊するために用いる)による発病癰の消毒

を行なっているが、完全な駆除は難しい。

(2)で駆除に成功しても、別の至路からの再感染が危えられるので飼育容器の洗剤と消毒を励行しなければならない。

◎ 6月の採集作業

日 時	採集場所	方 法	人 員	主な目的
2日午後	島 島	磯採集	1	潮間帯の動物
4日 "	塔島西側 船場場沖	潜 水	2	小型魚類
8日 "	動物園下の磯	磯採集	3	稚 魚 類
11日夕方	桑葺荘下の磯	竿 釣	1	ネンブツダイ類
13日午後	塔島東側	潜 水	3	チヨウチヨウウオ
16日午前	古賀浦真珠湾	玉 網	2	アミメハギ
17日午後	塔島東側	潜水及び竿釣	3	中小型魚類
18日 "	動物園下の磯	玉 網	2	タイドフルの魚類

◎ 主な採集水族名

魚 類 { ゴンズイ ヒバシヨウジ マツカサウオ ツマグロアゴナシ ネンブツダイ オキゴンバイ
イタチウオ カクレウオ ナベカ コケギンボ クモギンボ ヒメギンボ セダカスズメダイ
アオブダイ チヨウチヨウウオ ヨソギ アオサハギ オニカサゴ シマキンチャクフグ
ホウボウ ササウシノシタ

無脊椎動物 { ハナガサフラゲ スナイツギンサヤク ニンジンイリギンサヤク ムラサキハナギンサヤク
キンセンガニ ベニホシマンジュウガニ アサヒガニモドキ フトコビシヤコ SP
ハナデシヤ ニシキウミウシ イボウミウシ シロウミウシ シロハナガサウミウシ SP
クロスジウミウシ SP ヒメコウイカ フジナマコ

◎ 主な購入魚類

ゴテンアナゴ モンガラドウシ ウツボ トラウツボ アカマツカサ アカハタ
ウメイロ イズスミ フエダイ イトヨリ メイチダイ ミギマキ イラ テンス
オハグロベラ キユウセン ブダイ アオブダイ チヨウチヨウウオ アイゴ
カワハギ

◎ 6月30日現在飼育中の動物は総計 331種 3,990 個体以上で、その内訳は次の
(36)

通り、このうち観覧水槽に展示中の動物は 321 種、3790 個体以上

カイメン類	5 種	多 毛 類	4 種	タ コ 類	1 種
ヒドロ虫類	4	カブトガニ類	1	ウミシダ類	5
ウミトサカ類	4	フジツボカメノテ類	2	ヒトデ類	8
ヤ ギ 類	8	エ ビ 類	18	クモヒトデ類	3
ウミエラ類	1	ヤドカリ類	4	ウ ニ 類	14
イソギンチャク類	10	カ ニ 類	26	ナマコ類	8
イシサンコ類	8	アメフラシ類	10	ホ ヤ 類	6
ツノサンコ類	2	ニ枚貝類	11	軟骨魚類	10
スナギンチャク類	1	巻 貝 類	19	硬骨魚類	138
ハナギンチャク類	1			(内熱帯海水魚)	19
ホウキムシ類	1			カ メ 類	3

資 料

◎ 5月の気象 (09時観測)

南水槽室 (水温・比重は No. 25水槽)

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数 : 7	2	4	1
室 温 (°C)	$\frac{20.4 \sim 21.7}{21.0}$	$\frac{19.8 \sim 23.0}{21.5}$	$\frac{21.6 \sim 23.0}{22.3}$
水 温 (°C)	$\frac{20.04 \sim 20.89}{20.49}$	$\frac{20.22 \sim 21.74}{21.11}$	$\frac{20.10 \sim 22.58}{21.76}$
比 重 (0-15)	$\frac{2131 \sim 2370}{23.14}$	$\frac{1957 \sim 2359}{21.65}$	$\frac{2307 \sim 2359}{23.31}$

水 温	H (°C)	$\frac{19.0 \sim 20.8}{20.0}$	$\frac{19.8 \sim 21.2}{20.4}$	$\frac{20.0 \sim 22.2}{20.9}$
	T _B (°C)	$\frac{19.8 \sim 21.0}{21.0}$	$\frac{20.5 \sim 21.6}{21.1}$	$\frac{21.2 \sim 22.3}{21.7}$

取 入 口

水 温 (°C)	$\frac{20.00 \sim 21.00}{20.67}$	$\frac{20.28 \sim 22.00}{21.47}$	$\frac{20.62 \sim 23.68}{22.20}$
比 重 (0-15)	$\frac{2127 \sim 2390}{23.21}$	$\frac{1955 \sim 2397}{22.03}$	$\frac{2277 \sim 2361}{23.32}$

来 訪 録

6月1日 白浜町長南和七委員は藤山愛一郎経済企画庁長官を案内して来館

6月11日 海瀬今男県商工課長は行幸関係の礼のため来館

6月17日 振興会創立當時文部省にあって、いろいろお世話いただいた、管財局の井内慶次郎助成課長来館。

6月21日 越前松島水族館水部柳太郎氏は魚買付のため来館。

6月22日 鳴門自然水族館井上誠二飼育主任視察のため来館。

昭和37年7月5日 (N0.118)

隆岡時 兼行 養行

会典振前殿
内所自來山泉
泉池泉池泉池
(Tel. 白濁 515)